談　話　室

第2回人工知能国際会議報告*

榑松　明**

第2回人工知能国際会議 (2nd International Joint Conference on Artificial Intelligence) が 1971 年9月1日より3日までロンドンの Imperial College で British Computer Society の主催で開催された．今回の会議は 1969 年5月に開かれた第1回目に引き続くもので，発表論文数は 69 件，参加人員は約 350 名であった．わが国からは，筆者のほかに関英男（ハワイ大)，南雲仁一(東大)，中野馨(東大)，合田周平(電通大)，江尻正員（日立中研)，白井良明（電総研）の各氏をはじめ 10 数名が参加した．発表論文の専門別領域と論文数は表に示される．国別内訳は米国 39 件，日本とソ連が各8件，イギリス6件，フランス3件，その他チェコ，ポーランド，インド，カナダ，スウェーデンから各1件であった．

表　論文の領域

領　　域	件　数
Scene Analysis	7
Robot and Integrated Systems	7
Associative and Adaptive Models	7
Pattern Recognition	11
Computer Understanding	9
Analysis of Human Behavior	7
Theorem Proving	6
Heuristic Problem Solving	4
Software Support	4
Theoretical Foundations	5
Applications	4

今回の会議は内容が充実しており出席者も若い人が多く活気にあふれていた．総会での意見でもぜひ今後継続させろという強い要望が述べられた．出席者は，数学，電気，心理，社会などいろいろな分野の人で，この会議は人工知能の問題を広く解決する集まりとしてますます盛んになるものと思われる．

日本の研究レベルはかなり高いところにあり，なかでもロボットの論文は好評を得ていた．全般的にはアメリカの SRI, MIT, Stanford 大学，Carnegie-Mellon 大学などの人工知能研究グループの精力的な研究が目についたが，人工知能研究を哲学的に考察して，いままでの研究方法に一種の反省を引き起こさせるものもあったことは見のがせない．会議の詳しい内容は，文献[1)~3)]に述べられているので割愛する．Proceeding の入手先は The British Computer Society, 29 Portland Place, London, W. 1. U. K. である．次の第3回会議は 1973 年に開かれる予定である．

参考文献

1) 合田周平："第2回人工知能国際会議"，信学誌，Vol. 55, No. 1, pp. 15～17 (Jan. 1972).
2) 榑松　明："第2回人工知能国際会議に出席して"，信学会電子計算機研究会，EC 71-41 (1971年11月).
3) 南雲仁一："第1回人工知能国際会議"，信学誌，Vol. 52, No. 8, p. 935 (Aug. 1969).

(昭和47年2月10日受　付)

* Second international joint conference on artificial intelligence, by Akira Kurematsu (Kokusai Denshin Denwa Co., Research Laboratory)

** 国際電信電話株式会社研究所